



「穏やかな最期を迎えるために」

石飛 幸三 氏



石飛先生からの メッセージ

「老いて衰えて必ず訪れる老衰死、これは自然の決まりです。私は老人ホームで老いて死に向かう人々の看取りを行ってまいりました。ご家族に見守られながら、特別な処置を行うことなく、安らかに死を迎えることこそ、人の終末のあり方であると私は確信しております。私の講演が、死と向き合い、生き方を真剣に考えるきっかけとなれば、とても嬉しく思います（一部抜粋）」

座長

総合犬山中央病院 院長
齊藤 雅也

【プロフィール】

石飛 幸三(いしとび こうぞう)

(世田谷区立特別養護老人ホーム芦花ホーム 常勤医師)

1935年生まれ。

1961年慶応義塾大学医学部卒業。

1970年ドイツで血管外科医として勤務。

1972年東京都済生会中央病院勤務。

2005年より現職

執筆・講演・メディアを通して、なぜ自然な老衰死ができないのかを問い続け、2010年刊行の『平穏死』のすすめ』はベストセラーとなる。また 2015年放送のNHKスペシャル「老衰死～穏やかな最期を迎えるには～」に出演、大きな反響を呼んだ。

主な著書：「家族と迎える平穏死」（廣済堂出版）

「平穏死という生き方」（幻冬舎）

「穏やかな死のために」（さくら舎）

日時

2020年 **3月14日(土)**
14:00～16:00
(受付開始時間)13:30

会場

エナジーサポートアリーナ
(犬山市体育館)
2階 多目的室

参加費

無料